

伊勢原市第5次総合計画 後期基本計画 施策評価委員会  
【第2分科会 第2回会議】 会議録

〔日 時〕 令和2年12月25日(金)午後1時30分～午後4時30分

〔場 所〕 伊勢原市役所 3階 議会全員協議会室

〔出席者〕

〈委員〉

安 藤 隆 幸

柴 田 明 彦

土 井 文 平

大 高 利 夫

種 村 公 利

〈関係部職員〉

山室 企画部長

辻 経済環境部長

大津 市民生活部長

重田 都市部長

萱場 農地利用担当部長

小菅 商工観光課長

小瀬村 人権・広聴相談課長

天野 農業振興課長

萩原 農林整備担当課長

大町 広報戦略課長

足立 新産業拠点整備課長

〈事務局〉

成田 経営企画課長

瀬尾 経営企画課係長

成澤 経営企画課主任主事

吉川 経営企画課主事

〔公開可否〕 公開

〔傍聴者〕 なし

〔次 第〕

1 開会 事務局

2 あいさつ 柴田委員長代理（第2分科会座長）

3 議題

（1）分科会の進め方について 事務局より説明

（2）施策の評価について ※ 意見、評価は別紙のとおり

施策2-1：地域を支える商業・工業の振興

施策2-2：誰もが働きやすい環境の整備

施策2-3：地域とつながる都市農業・森林づくりの推進

施策2-4：魅力ある観光の振興

施策2-5：シティプロモーションの推進

施策2-6：地域特性を生かした新たな産業基盤の創出

（3）次回評価の施策について 事務局より説明

4 閉会 事務局

施策		21：地域を支える商業・工業の振興					
評価項目	評価結果 (1つに○)	各委員の評価結果					分科会の評価
		委員6	委員7	委員8	委員9	委員10	
① 主な指標の達成状況	A 順調に進捗している B 概ね順調に進捗している C 遅れている	A	B	B	B	A	B
② 事業の構成に関する評価	A 適切な構成である B 概ね妥当である C 構成に問題がある	B	B	B	B	B	B
③ 市民意識の反映	A 反映されている B 概ね反映されている C 反映できていない	C	B	B	B	B	B
④ 施策推進上の課題の捉え方	A 課題の捉え方が的確である B 課題の捉え方に一部不足が見られる C 課題認識ができていない	B	A	A	A	A	A
⑤ 施策の方向性	A 拡大して実施 B 継続実施 C 縮小して実施 D 抜本的見直し	B	A	B	B	A	A

<p><b>施策に対する総合的な評価</b></p>	<p>①指標の達成状況。 主な指標の達成状況は概ね良好と評価する。</p> <p>②事業の構成 施策を構成する「ロボット産業促進事業」において「産学官」連携を概観に揭げているが、「学」部分の説明を求める。合わせて「学」領域を大学に限定することなく小中高にも拡げることが本施策遂行で重要な要素となると考える。</p> <p>③市民意識の反映 本施策がDゾーンに位置付けられている点（特に重要度の低さ）が気になる。官民一体で本施策を推進するためにも市民への啓蒙普及活動の必要性が課題と考える。</p> <p>④課題認識 「新たな生活様式」に関して、非接触型展開など、より具体的な課題を掲げ取り組む必要がある。</p> <p>⑤方向性 施策展開の方向（内容）に記載された2番目の項目の中でも特に農業振興に関する方向性（伊勢原大山インターチェンジ開通というエポックを活かした展開ex道の駅）を明確に示す必要がある。</p> <p>⑥総合的な評価 以上記述した項目を付加して拡大実施することを望む。</p>	<p>この施策は、市民意識調査の満足度調査結果が、39/40位と評価が低いが重要度は80%と高く評価されている。詳細な理由は不明であるが、商店街以外の項目については市民生活にあまり関わりがないためではないかとも捉えられる。</p> <p>市民要望、意見にもあるように「優良企業」=「税金に繋がる企業」=「雇用創出できる企業」の誘致を進めていくことが大事である。</p> <p>商工業の振興は、地域経済の活性化に直接繋がることであり、指標を見直すなど事業構成を拡大して実施していただきたい。</p>	<p>①主な指標の達成状況については、得られた指標が少ないが、概ね進捗していると評価した。 ※指標以外にも達成状況を評価できるデータ（企業の誘致件数や商店会団体等による活性化イベントの参加人数など）があれば、ご説明いただきたい。</p> <p>②事業の構成に対する評価については、構成する主な事業について順調に推移しており、概ね妥当であると評価した。 ※内部評価での「新たなアイデアや地域連携の創出」について具体的にご説明いただきたい。</p> <p>③市民意識の反映については、市民意識調査で平均値は下回っているが満足度、重要度ともに増加しており一定の評価ができる。</p> <p>④伊勢原大山インターチェンジの開通を好機と捉え、地域経済の活性化に取り組むなど、課題の捉え方は的確である。</p> <p>⑤施策の方向性については、引き続き工業および商業の振興に取り組むことが望まれる。 ※施策の拡大や縮小を判断するために、工業・商業の振興のための具体策をご説明いただきたい。 ※市民の意見では商業の振興を期待する声が多いが、現状の具体策での効果をご説明いただきたい。</p>	<p>施策番号26、27の都市部の取り組みと一体化した事業推進が必要では。</p> <p>市民意識の向上は、期待の表れと考え、事業継続が必要で、社会状況の変化に対応した取り組みに期待する。</p>	<p>施策の主な事業の内、企業立地の促進とロボット産業促進については、伊勢原市を取り巻く新たな要因（新東名伊勢原・大山インター開通、さがみロボット産業特区等）に基づき地域活性化等積極的な取り組みが見られる。</p> <p>また、第3の柱の商店街活性化支援については、イベント開催や空き店舗対策、県道平塚・伊勢原線の電柱地中化事業等、市民に目に見える形での事業を進捗し、さらには、この11月にコロナ対策を踏まえた市と商工会発行の「いせはら特子ケ」（伊勢原市プレミアム商品券）が市民応募が2・7倍となるなど、市民の関心も高まり、これも地元商店街活性化に寄与するものと思う。市民の関心も高まり、これも地元商店街活性化に寄与するものと思う。</p> <p>今後七、引き続きこれらの施策の積極的な展開を期待している。</p>
----------------------------	--	--	--	--	---

施策		22：誰もが働きやすい環境の整備					
評価項目	評価結果 (1つに○)	各委員の評価結果					分科会の評価
		委員6	委員7	委員8	委員9	委員10	
① 主な指標の達成状況	A 順調に進捗している B 概ね順調に進捗している C 遅れている	C	B	-	C	C	C
② 事業の構成に関する評価	A 適切な構成である B 概ね妥当である C 構成に問題がある	C	B	B	C	B	C
③ 市民意識の反映	A 反映されている B 概ね反映されている C 反映できていない	C	B	B	B	B	B
④ 施策推進上の課題の捉え方	A 課題の捉え方が的確である B 課題の捉え方に一部不足が見られる C 課題認識ができていない	B	A	B	B	A	B
⑤ 施策の方向性	A 拡大して実施 B 継続実施 C 縮小して実施 D 抜本的見直し	A	C	B	A	B	B

<p><b>施策に対する総合的な評価</b></p>	<p>①指標の達成状況。 内部評価の通り達成度は低いと判断せざるを得ない。</p> <p>②事業の構成 ビフォア・コロナ時代に作成した施策を構成する二つの事業は、アフター・コロナ期を見据えると大幅な改善が必要となるため、現状の評価は極めて低いと考える。</p> <p>③市民意識の反映 重要度の高まりに比べ満足度が低下している点に注視すべき。ワークライフバランスに対する満足度は現実の生活満足度とは違う指標と受け止めていかなくてはならない。</p> <p>④課題認識 ポスト・コロナ時代に向けた課題認識を可及的速やかに改善することが重要だと考える。</p> <p>⑤方向性 ワークライフバランスに関しては、世間一般論ではなく伊勢原市に適合したモデルを示していくことが必要だと考える。特に伊勢原大山インターチェンジ開通による利便性の向上から「伊勢原リモートワーク」構想を付加すべきだと考える。</p> <p>⑥総合的な評価 上記記述した項目を加味して拡大実施することを望む。</p>	<p>この施策の目的は、労働者の働くことのできる環境の整備であるが、市だけで取り組むことが非常に難しいと考える。企業との連携や国（厚労省）や県（産業労働局、かながわ労働センター）などの連携をとりながら進めていくべきである。</p> <p>今後は他の施策の中に取り込むなど、見直して実施すべきと思う。</p>	<p>①主な指標の達成状況については、見込みも困難とのことで、評価していない。※指標以外にも達成状況を評価できるデータがあれば、ご説明いただきたい。</p> <p>②事業の構成に対する評価については、構成する主な事業について順調に推移しており、概ね妥当であると評価した。</p> <p>③市民意識の反映については、市民意識調査で満足度は若干さがっているものの、重要度が増加していることからワークライフバランスへの理解促進等が図られたと考えられ、一定の評価ができる。</p> <p>④各企業の働き方改革の推進は課題であり、支援メニューの強化のためにも、職場での働きやすさに加え、高齢者や共稼ぎ世帯の意見集約が重要と考える。※内部評価にある支援メニューの強化について具体策があればご説明いただきたい。</p> <p>⑤施策の方向性については、引き続き雇用環境の改善活動に取り組むとともに、整備が進んでいる産業用地への企業誘致において雇用者数が増える業種の誘致が望まれる。（施策21と連携）</p>	<p>市民意識調査では、期待値は上昇しているが、満足度が上がっていない。</p> <p>事業の目的達成の指標は達成できているが、事業としての効果が少ないのではないかと。</p> <p>住民の期待に応える事業を期待する。</p>	<p>働く環境整備の種々の法案施行に伴い、雇用や就労支援などの事業が展開されている。</p> <p>一方、コロナ感染拡大に伴い、事業者サイドの新規雇用の減少等が懸念されているので、コロナ禍の状況を鑑み、新たな雇用や制度設定等を検討していく必要があると思える。</p> <p>また、新たな産業用地の拡大については、企業の誘致が行われているが、物流施設や資材・機材置き場が多く見受けられる。</p> <p>今後は、新たな雇用や人口増に繋がる業種の誘致を図っていく必要があると思われる。</p>
----------------------------	--	---	--	---	--

施策		23：地域とつながる都市農業・森林づくりの推進						
評価項目	評価結果 (1つに○)	各委員の評価結果					分科会の評価	
		委員6	委員7	委員8	委員9	委員10		
① 主な指標の達成状況	A 順調に進捗している B 概ね順調に進捗している C 遅れている	A	A	A	A	A	A	
② 事業の構成に関する評価	A 適切な構成である B 概ね妥当である C 構成に問題がある	A	A	B	B	A	B	
③ 市民意識の反映	A 反映されている B 概ね反映されている C 反映できていない	A	B	B	B	B	B	
④ 施策推進上の課題の捉え方	A 課題の捉え方が的確である B 課題の捉え方に一部不足が見られる C 課題認識ができていない	A	A	A	A	A	A	
⑤ 施策の方向性	A 拡大して実施 B 継続実施 C 縮小して実施 D 抜本的見直し	A	B	B	B	A	B	
施策に対する総合的な評価	<p>①指標の達成状況。 「日本遺産のまち伊勢原うまいものセレクト」のブランド確立など順調に進捗していると評価できる。</p> <p>②事業の構成 本施策を構成する事業に過不足はない。遅れている事業を継続進捗していただきたい。有害鳥獣対策事業費用に関しては市民ならびに関係各方面のコンセンサスを取り付けるための啓蒙活動が必要だと考える。</p> <p>③市民意識の反映 満足度、重要度ともに向上しているので市民のニーズは反映していると評価できる。</p> <p>④課題認識 本施策は時間を要する事業が多いため拙速な評価はしにくい。</p> <p>⑤方向性 農業従事者のマンパワー不足の解消に向け、戦国時代や江戸時代に健在した「半農半土」ならぬ「半農半X」的な「伊勢原リモートワーク」といったライフスタイル提言も必要だと考える。</p> <p>⑥総合的な評価 ブランドの確立は一過性の花火ではなく継続することが重要。</p>	<p>有害鳥獣対策については、全国的な問題でありJA、県、近隣市などと連携しながらさまざまな対策を講じていることから、一定の効果が現れていると考えられる。引き続き取り組みを進めてもらいたい。</p> <p>農業従事者の後継者不足、荒廃農地の対策など、何が有効手段となるのか模索しながら引き続き継続実施していただきたい。</p>	<p>①主な指標の達成状況については、全ての指標で目標を上回っており、順調に進捗していると評価した。</p> <p>②事業の構成については、構成する主な事業について順調に推移しており、概ね妥当であると評価した。</p> <p>③市民意識の反映については、市民意識調査で平均値は下回っているが、満足度、重要度ともに増加しており一定の評価ができる。</p> <p>④課題の捉え方については、農地の荒廃抑制や森林づくりの課題等についての的確に捉えている。</p> <p>※内部評価にある「地域の実情に即した取り組みと、合併したJAの広域的な取り組みの整合」について、具体的にご説明いただきたい。</p> <p>⑤施策の方向性については、有害鳥獣対策や農畜産物ブランド化、担い手不足問題等に引き続き取り組むことが望まれる。</p>	<p>ブランドの向上は効果が出ている。</p> <p>経営基盤効果対策においては、荒廃農地の拡大など課題がある。</p> <p>住民に期待と満足度の向上が見られる。</p>	<p>主要指標の達成状況から見ると標記施策は順調に進捗していると思う。</p> <p>その中で、今後の都市農業の多くの課題（農業人口の減少と高齢化、農地の荒廃と基盤整備、経営基盤の脆弱等）を的確に捉えているので、これからも安定した都市農業を維持していくため、多岐にわたる施策が展開されることを期待している。</p>			

施策		24：魅力ある観光の振興					
評価項目	評価結果 (1つに○)	各委員の評価結果					分科会の評価
		委員6	委員7	委員8	委員9	委員10	
① 主な指標の達成状況	A 順調に進捗している B 概ね順調に進捗している C 遅れている	A	A	A	A	A	A
② 事業の構成に関する評価	A 適切な構成である B 概ね妥当である C 構成に問題がある	C	B	B	B	B	B
③ 市民意識の反映	A 反映されている B 概ね反映されている C 反映できていない	B	A	B	B	B	B
④ 施策推進上の課題の捉え方	A 課題の捉え方が的確である B 課題の捉え方に一部不足が見られる C 課題認識ができていない	B	A	A	B	A	B
⑤ 施策の方向性	A 拡大して実施 B 継続実施 C 縮小して実施 D 抜本的見直し	A	A	B	B	A	A

<p><b>施策に対する総合的な評価</b></p>	<p>①指標の達成状況。 新型コロナウイルスの影響を度外視すれば順調に進捗してきたと評価できる。</p> <p>②事業の構成 現状の事業はピンポイント「点」施策であり、今後は「面」での拡がりを付加させなくてはならないと考える。</p> <p>③市民意識の反映 満足度、重要度ともに高く市民意識の反映となっているが、Bゾーンのボーダーラインに位置する点は改善していかなくてはならない。</p> <p>④課題認識 主語（主体）を一人称とするのではなく、「産学官+メディア」という座組で施策立案する必要があると考える。</p> <p>⑤方向性 新たな観光推進組織「DMO (Destination Management/Marketing Organization)」を中心に伊勢原市、神奈川県、周辺自治体、企業（特に小田急）、大学等が一体となった広域的観光戦略が必要だと考える。</p> <p>⑥総合的な評価 伊勢原市には資産、コンテンツは揃っているため、今後は物語性を醸成することが喫緊の課題だと考える。</p>	<p>インバウンド事業については、新型コロナウイルス感染症の影響が大試算であり、本格的に進めるには時間がかかりそうであるが、先のことを考えて事業を組み立てておくことが必要である。</p> <p>市は、観光施策を最重要施策の一つとして捉えているため、事業内容を拡大して実施すべきと考える。</p> <p>担当課が課題として捉えているように、以前と比較すると様々な取組が進んでいるが、受入体制の強化（駐車場、温浴施設、オーバーユース対策）、大山以外の観光地の整備とPRを進めながら今後も継続して実施していただきたい。</p>	<p>①主な指標の達成状況については、新型コロナウイルスの影響前までは着実に増加しており、順調に進捗していると評価した。</p> <p>②事業の構成に対する評価については、構成する主な事業について、ほぼ予定通り達成されており、概ね妥当であると評価した。 ※内部評価での「目的達成に向けた効果的な取組」について具体的に説明いただきたい。</p> <p>③市民意識の反映については、市民意識調査で満足度はやや下がっているが、平均値より高く、また重要度も平均値を上回っており一定の評価ができる。</p> <p>④課題の捉え方については、観光消費額の増加を目指し、滞在時間の延長のため、周遊ルートの確立や観光拠点づくりを進めているなどの確実であると評価した。</p> <p>⑤観光振興には、誘客施策に引き続き取り組むことが望まれる。また、施策25プロモーションとの連携も重要である。 ※「広域周遊ルートの確立および観光拠点づくり」について、今後の進め方をご説明いただきたい。</p>	<p>コロナ下において、目標達成できているのかわからないが、住民に期待値、満足度は高い。</p> <p>大山インター開通後の施策として、車による観光客に対する施策が必要では。</p>	<p>大山、日向、比々多の3本柱の観光振興の施策は、イベント数、迎え入れ観光客数、観光消費額共に年々実績が上がっており、施策の成果が出てきていると思われる。</p> <p>施策の課題については、的確に捉えているが、インバウンドの受け入れ、観光地へのアクセス対策や大山・日向の回遊計画等の構想に対し、一歩突っ込んだ具体策を検討して示してもらえれば、施策への市民意識も高まるものと思う。</p> <p>また、関係機関の連携について、特に（一社）伊勢原市観光協会や地域の比々多観光振興会との連携や役割分担はいかなるものか。</p>
----------------------------	---	--	---	---	--

施策		25：シティプロモーションの推進					分科会の評価	
評価項目	評価結果 (1つに○)	各委員の評価結果						
		委員6	委員7	委員8	委員9	委員10		
①	主な指標の達成状況	A 順調に進捗している B 概ね順調に進捗している C 遅れている	C	B	B	B	A	B
②	事業の構成に関する評価	A 適切な構成である B 概ね妥当である C 構成に問題がある	B	A	B	B	B	B
③	市民意識の反映	A 反映されている B 概ね反映されている C 反映できていない	B	B	B	B	B	B
④	施策推進上の課題の捉え方	A 課題の捉え方が的確である B 課題の捉え方に一部不足が見られる C 課題認識ができていない	B	B	A	B	A	B
⑤	施策の方向性	A 拡大して実施 B 継続実施 C 縮小して実施 D 抜本的見直し	A	B	B	B	A	A

<p><b>施策に対する 総合的な評価</b></p>	<p>①指標の達成状況。 プロモーション指標は即効性が高いのが特徴というマーケティング通念から鑑みると、現進捗状況以上のスピード感が必要だと考える。</p> <p>②事業の構成 「地域の魅力事業発信」において、マスコミに掲載、露出する“ヒット率”が上昇しているとの報告があるが、数値化して更なるリリースのクオリティを高めることが重要だと考える。</p> <p>③市民意識の反映 満足度が前回調査より低下している点に注視し、インナー（市民）施策を高める必要がある。</p> <p>④課題認識 魅力発信事業においては訴求させたい属性を見極めたメディア政策（マスメディア、SNS、OOH）が必要。合わせて本施策においては、ポトムアップ（市民の参画）が欠かせない。</p> <p>⑤方向性 ポストコロナ時代は非接触型コミュニケーションの比重が増す中、新たな接触型コミュニケーション活動を考案していかななくてはならない。</p> <p>⑥総合的な評価 本施策においては、産学官連携の中でも特に「学」と有機連携することが効果的だと考える。</p>	<p>シティプロモーションは、地域再生、観光振興、定住促進などの手法にも使われるとともに、街の知名度向上にもなることから本市にとっては必要不可欠である。</p> <p>また、自治体の営業力が試され、いかに上手にセールスをしていくかがポイントとなる。各自治体は独自色を駆使し、今では都市間競争にもなっている。</p> <p>公認サポーターは、魅力を発信する役目であり、現在活躍している。市の魅力を発見、発掘する人の制度もあっていいのではないかと。引き続き継続して実施していただきたい。</p>	<p>①主な指標の達成状況については、横ばい及び増加傾向であるが、施策24の評価指標である観光者数、観光消費額共に伸びており、概ね順調に進捗していると評価した。</p> <p>②事業の構成に対する評価については、構成する主な事業について、ほぼ予定通り達成されており、概ね妥当であると評価した。 ※「プロモーション公認サポーター」について具体的に説明いただきたい。</p> <p>③市民意識の反映については、市民意識調査で満足度はやや下がっているが、平均値より高く、また重要度もやや増加しており一定の評価ができる。 ※重要度が低い原因が分かればご説明いただきたい。</p> <p>④コロナウイルス終息後を見据え、観光客のニーズ及び新たな生活様式に際して伊勢原市の魅力を効果的にプロモーション活動を行う必要があり、課題の捉え方は的確である。 ※内部評価に記載のある「公認サポーター同士の連携」についてご説明いただきたい。</p> <p>⑤観光、住民両方の目線からのプロモーション活動に引き続き取り組むことが望まれる。</p>	<p>効果がわかりにくい事業であるが、継続すべき事業 市民の意見にもあるように、様々なメディアにおける情報発信も必要ではないか？</p> <p>プロモーション公認サポーターは、人数だけでなく、その成果もわかるように方向性に示されているように、市民による地元の愛着や誇りを高める取り組みがシティプロモーションに繋がる。</p>	<p>この事業の推進を測る指標は、なかなか数値的には捉えにくいと思われる。</p> <p>主な指標の魅力度ランキングと市民評価から見るとBの評価だが、構成事業目標達成状況を合わせて鑑みると事業全般は順調に進捗していると思われる。</p> <p>現事業の施策観点は、情報の発信と地域人材の魅力創造事業のソフト面が中心だが、プロモーションとして、伊勢原の魅力としての観光資源や、施設・建造物などのハード面も取り込んだ活動も必要かと思う。その意味合いから観光事業等との一体的な連携が肝要かと思う。</p> <p>また、地域人材による魅力創造事業において、その指標として公認サポーター数値のみとなってますが、公認サポーター（55団体）のプロモーション活動に関わった数値や内容も重要な指標かと思う。</p> <p>今後も、伊勢原市の魅力を発信していくために、様々な施策を拡大して展開されることを期待している。</p>
---------------------------------	---	---	--	--	---

施策		26：地域特性を生かした新たな産業基盤の創出					
評価項目	評価結果 (1つに○)	各委員の評価結果					分科会の評価
		委員6	委員7	委員8	委員9	委員10	
① 主な指標の達成状況	A 順調に進捗している B 概ね順調に進捗している C 遅れている	A	A	A	A	A	A
② 事業の構成に関する評価	A 適切な構成である B 概ね妥当である C 構成に問題がある	A	A	A	B	A	A
③ 市民意識の反映	A 反映されている B 概ね反映されている C 反映できていない	A	B	B	B	A	A
④ 施策推進上の課題の捉え方	A 課題の捉え方が的確である B 課題の捉え方に一部不足が見られる C 課題認識ができていない	A	A	A	B	A	A
⑤ 施策の方向性	A 拡大して実施 B 継続実施 C 縮小して実施 D 抜本的見直し	A	B	B	B	A	A
施策に対する総合的な評価	<p>①指標の達成状況。順調に進捗している。</p> <p>②事業の構成 交通アクセスの飛躍的向上を見込み立案された二つの推進事業は過不足ない。</p> <p>③市民意識の反映 満足度は低下したが、重要度は増加している点に市民ニーズが反映されている。</p> <p>④課題認識 適切だと評価できる。</p> <p>⑤方向性 広域幹線道路網の飛躍的向上というアドバンテージに対し施策の方向性は妥当だと評価できる。企業誘致に関しては教育系機関や文教施設を視野に展開して頂きたい。</p> <p>⑥総合的な評価 伊勢原市の玄関口とも言える伊勢原駅リブランド（特に北口）も重要な課題と考える。</p> <p>東部第二土地区画整理事業は、事業の目標達成状況から順調に進められていることがわかる。</p> <p>新東名の伊勢原大山ICの開設で、交通の利便性が向上したことは市にとって大きな魅力となる。今後はIC周辺の新たな産業用地の創出に取り組んで、優良企業の誘致を頑張ってもらいたい。</p> <p>次期計画には指標にもあるように、市街化区域の面積拡大やIC周辺の新たな産業用地創出、周辺道路の整備などを踏まえて継続実施していただきたい。</p> <p>①主な指標の達成状況については、今年度で各指標が目標値に達する見込みであり、順調に進捗していると評価した。</p> <p>②事業の構成に対しては、主な事業について予定通り達成されており、また、施策目的にも合致していると評価した。</p> <p>③市民意識調査で重要度はやや上がっているが、満足度はやや下がっている。これは、基盤整備が進んだことにより施策の必要性の理解が深まったことで、より企業誘致への期待が高まったと推測され、市民意識の反映については一定の評価ができる。</p> <p>※これまでの企業誘致の進め方についてご説明いただきたい。</p> <p>④企業誘致や土地の有効活用を進める上で、急激に変化する社会経済環境や人々の働き方を注視し対応することは重要な課題であり、課題の捉え方は的確である。</p> <p>⑤地域経済の活性化を図るため、新東名高速道路や県道603号線といった都市機能の向上に合わせた市街地整備については、引き続き取り組むことが望まれる。</p> <p>産業用地の拡大は概ね達成できている。</p> <p>新型コロナウイルスの影響など、社会状況の変化に対応し、どのような企業を誘致するのかというビジョンと取り組みが欲しい。</p> <p>住民意見にもあるように、雇用機会の拡大、従業員の定着など、成果が見られるような施策が欲しい。</p> <p>施策番号21の経済産業部の取り組みと一体化した事業推進が必要では。</p> <p>主要な2つの事業は、新東名高速道路及び国道246号線ハイパス道路開通に伴う街づくり事業であり、いずれも各指標からみて順調に進捗されている。</p> <p>特に、東部第二土地区画整理事業は、既に基盤が整備されてて企業が立地され、操業が開始されているのが見られる。誘致された企業には、物流センターや資材・機材センターなどが見受けられる。</p> <p>今後は、新たな雇用の確保や市の人口増に繋がる業種の誘致の検討が必要かと思われる。</p>						